

令和4年度クラスマッチ開催

千西一遇

第102号
発行
2022年
11月26日(土)
上田西高校
新聞委員会
編集局

編集局長・嶋田晴佳
新聞委員長・樋口華
重田 陽菜
金井 菜優
水出 楓香
辺見 咲良



運動会学年別クラス対抗リレー(3年生)のゴールの瞬間

写真撮影=樋口 華

10月19日(水)、20日(木)にクラスマッチが実施され、大きな盛り上がりを見せた。感染対策を徹底し、初日の球技会では男子がソフトボール、バレーボールの2種目。女子がバレーボール、バドミントンの2種目を行った。2日目の運動会では過去に実施されていた大縄跳びや綱引き、リレー等に加え前例のない競技も多く行われ、ハチマキの色で4つのチームに別れた他の学年やクラスを応援している姿も多く見られた。また、開会式ではコーモアを交えた選手宣誓や、生徒会幹事長の幸平夏実さんと生徒会主任の森下暁先生を中心に話を聞いた。

クラスマッチ入賞クラス

1位	3年6組
2位	3年5組
3位	3年1組
4位	3年4組
5位	3年3組
6位	2年6組
7位	2年4組
8位	2年1組



今年は観戦席を設け、場外から密になって観戦する行為を防止した



縦割りチームごとに赤・青・緑・黄のハチマキが配られた

今年度のクラスマッチは6年振りの2日間開催となり、大きな盛り上がりを見せた。2日間開催となった理由を生徒会主任の森下先生は「3年生が最後に盛り上がりられるイベントが1日だけなのは寂しいという声があり、『生徒たちが盛り上がり、熱くなれる行事の日数を増やしたい』という生徒会の活動と先生たちの思いで2日間になった」と語り、「生徒総会で2日間開催にして欲しいという意見が3年程前から毎日出ていて、その地道なもののが認められた結果だと思つ」と続けた。今回のクラスマッチ開催日が元に戻ったのは生徒の意見が実現された形だ。「しっかりと自分たちの

新型コロナウイルス禍3年目となった今年度のクラスマッチは、試合や観戦の前後に手指消毒を行い、準決勝、決勝以外は自分のクラスのみ観戦が可能な感染対策が行われ開催された。生徒も競技中以外はマスク着用、声を出しての応援は禁止などのルールを徹底する様子が見られた。運動会の開会式で行われた生徒会ダンスは生徒会役員だけでなく硬式野

新しいことに挑戦
要望を生徒総会などで出していつてそれを生徒会が中心に実現していくという本来あるべき生徒会と生徒の関係をこれからはもつていってほしい」と森下先生は語った。



生徒会のサプライズダンスの様子

球部の3年生も参加し場を盛り上げ、これから競技を迎える生徒達にラックスした雰囲気にも包まれた。生徒会ダンスは前例のない新しい企画であり、これについて生徒会主任の森下先生は「今年の生徒会の『新しいことにチャレンジする』という目標がクラスマッチでは自分たちでダンスを企画するという形となって現



クラスマッチを運営した体育委員長の幸平夏実さん

れた。これからもこういった取り組みは続けていくと欲しい」と語った。また、運動会を縦割りチームごとに配られたハチマキも初の試みであり、森下先生は「学年やクラスの垣根を越えて応援をしている姿は初めて見られたので良かった。チーム分けをした意味がそこに見られたと思う」と話した。

体育委員長の幸平さんはハチマキを思いついた経緯について「はじめに学年クラス関係なく仲良くできるようなことをしたいと思ひ、運動会をチームを表すために必要なことは色と考えたので頭に付けられるハチマキを思いつきました」と語り、「ハチマキによって誰が同じチームなのか分かり

やすくなり、学年クラス関係なく話が出来ようなきっかけになったので良かった」と続けた。

予想外の選手宣誓



運動会開会式の選手宣誓の様子

運動会開会式では各チームの代表者4名による選手宣誓がありその中で、宣誓内容に激怒した土屋勇満先生が生徒と揉み合いとなり、グラウンドは一時騒然となる「演出」があった。土屋先生は3年ぶりに全校が集まることのできる行事である運動会の開会式に「出演」するのは、「場を壊す可能性がある」として固辞していたという。しかし最終的には3年生の守屋勇輔さんの熱意に負け出演を決めた。

(樋口華)

6年ぶりの2日間開催 学年の垣根超え一体感

1日目 球技会

男子バレー



女子バレー

1位	3年6組B
2位	3年4組
3位	2年3組

↑バレーボール女子決勝戦 ボールをつなぐ3年6組の生徒



↑バレーボール男子決勝戦 スパイクを決める3年6組の生徒

1位	3年6組
2位	3年4組
3位	3年5組

盤石な戦い見せた「3年6組」

バレーボール男子の部ではどのクラスも全員で協力し全力で競技に挑む様子が見受けられた。実際に競技に参加した生徒に感想を聞き、協力して楽しく

本番を迎えることができた」との声が上がった。

バレーボールは仲間とのコミュニケーションが重要な競技となっているため、積極的に声を掛け合う様子が多く見られた。観戦している側からしても迫力があり大いに盛り上がった。ハイレベルな戦いの中、盤石な戦いを見せ、3年3組との決勝を25対17で勝利した3年6組が優勝した。

(金井 茉優)

強力打線で優勝「3年5組」

毎年球技会で最も盛り上がりを見せるソフトボールでは上位の試合になっていくにつれ鋭い打球が多くなり守備も堅くなっていた。決勝戦の3年3組対3年5組の試合では、野球グラウンドに多くの生徒が駆けつけ試合を観戦していた。両チームともに互いに声をかけあったり、励ましあったりする

様子が見られたが、最後に見事優勝を掴んだのは強力打線を誇った3年5組。決勝戦を観戦していた生徒からは「とても良い試合だった。自分が負けてしまった悔しさを吹き飛ばしてくれた」などと感動と興奮を与えてくれた両チームへの称賛の言葉が多くあげられた。アウトカウントの点灯

雪辱果たした「3年6組」

上田西高校クラスマッチの恒例行事バレーボールの女子の部では数多くの接戦が繰り広げられ、非常に白熱した戦いとなった。バレーボール経験者が居るチームも多い中で見事優勝を勝ち取ったのは1点を

確実に狙い安定したプレーを見せた3年6組。昨年度のクラスマッチでは惜しくも準優勝だったため今年度は念願の優勝となる。優勝が決まり、生徒たちが笑顔でハイタッチを交わす姿は達成感

に溢れていた。参加した生徒からは「クラスの絆がよりいっそう深まったように感じる」との声があげられ、優勝チーム以外でも試合中に積極的に声をかけ合うなどチームが一丸となり真剣に試合に取り組んでいた。

(樋口 華)



ソフトボール決勝戦 鋭い当たりを放つ3年5組の生徒

や応援BGMが流れるなど本番さながらの雰囲気での試合が行われた。(樋口 華)

ソフトボール

1位	3年5組
2位	3年3組
3位	3年4組

安定感で連覇「3年1組」

バドミントンでは3学年それぞれのクラスに別れたトーナメント戦で行われた。観戦席では、クラスメイトの応援に駆けつけた生徒達が男女関係なく拍手などで声援を送っておりクラスがひとつになっていく様子が見受けられた。バドミントンに参加した生徒は「やっぱり先輩方はすごく上手いなと思って。ペアと協力して点数が入った時は本当に嬉しくて思いきりハグしたくなった」と話していた。

数多くの熱い戦いが繰り広げられたが、見事優勝したのは2年連続優勝となる3年1組。非常に安定

バドミントン

1位	3年1組A
2位	3年6組B
3位	3年2組A

したプレーを見せ相手の強いスマッシュにも食らいついていた。コロナ禍で大声で名前を呼んでの応援やハイタッチをするなどは控えられていたがその中でも一人一人が輝ける場となった。

(重田 陽菜)



2日目 運動会

1位	3年5組
2位	2年1組
3位	3年1組

台風の目リレー 借り人競争 ボール運び クラス・チーム対抗リレー 大縄跳び 綱引き



新種目「台風の目リレー」に参加する生徒



新種目「ボール運び」に参加する生徒

今年度の運動会では3つの新種目が実施された。「ボール運び」は2人1組で、野球バット2本を使ってボールを挟み、落とさないように2人で協力してゴールを目指し競技。実際に競技に参加した生徒からは「次の人にボールを渡すのが難しかった」「2人で息を合わせて運ぶのが難しかった」など「思っていたよりも難しかった」というような声が多く上がった。うまくバランスをとることが難しく、どのクラスもゴールに向かう途中でボールを落としてしまい、苦戦していたがすぐにボールを拾い、ゴールを目指して競技を続ける様子が多く見られた。参加者全員

全員が楽しめる「新3種目」

が全力で挑むことができ、楽しい競技となった。

「台風の目リレー」は各クラス男子6人女子6人が参加。クラスごと学年で競う。棒を3人で持ち、コーンを周りにL型で早くゴールしたチームが勝ち。台風の目は、一緒に走る3人の団結力が試される。「コーンを回る時、外側の人だけが飛ばされず上手く周れるか」、「棒を次のペアに渡す時、どのくら



新種目「借り人競争」で先生を借りる生徒

いスムーズに行えるか」がクラスの順位に差をつけた。どのクラスもペアで声を掛け合い走ったり、走っているクラスメイトを応援する姿や、コーンを回る時に転んでも遅れをとらないよう必死になって立ち上がり走る姿が見られた。「借り人競争」は、スタートと共にお題の紙に書かれた人を探し、一緒にゴールする競技だ。お題には「尊敬する人」「好きな人」などが設定された。参加した生徒からは「お題が何か手分からなかったから緊張した」「お題に当てはまる人を呼ぶ時叫ばないと聞かれないから恥ずかしかった」などの声が聞かれた。横の繋がりだけでなく縦の繋がりも増え、参加選手だけではなく、応援者も含めみんなが一体となって楽しめる企画であった。

新3種目はどれも運動能力の有無に大きく依存する競技ではなく、団結力が試される全員が楽しめるものであった。(金井 茉優・嶋田 晴佳・重田 陽菜)

エキシビジョン 部活動対抗リレー

運動会で行われた部活動対抗リレーでは白熱した戦いが繰り広げられた。接戦の中見事最初にゴールテープを切ったのは硬式野球部チーム。勝因については野球部の守屋勇輔さんは「第1走者の僕です。1番最初に走るのは緊張しましたが、1位になれて、3年間この仲間と野球を頑張ってきたよかったです」と答えてくれた。



エキシビジョンとして行われた部活動対抗リレーの様子

にあったのかもしれない。(樋口 華)

「花形」例年通りの3種目



綱引きでは3年生がチームをリードする様子が見られた



参加者の団結力が試される大縄跳び

例年行われている運動会の「花形」3種目も盛り上がった。「綱引き」は、クラスごと男子2人女子2人が参加。3学年混合でハチマキの色ごと競った。3年生が先頭をきって声を掛け合う姿や先生方が競技中掛け声をかけたり、「腰を落とす」としてなどのアドバイスをする姿が見られた。特に競技中それぞれのチームの1番後ろで縄を引っ張っていた3年生男子生徒の身体に縄を巻き付けてまで頑張る姿が印象的であった。競技に参加していない観覧している生徒達も立って応援していたり、飛び跳ねたり、楽しむ様子が見られた。



例年盛り上がりを見せる「リレー」

夫して競技に挑んでいた様子が伺えた。連続で跳び続けることが難しく、回し手も跳ぶ人も、体力の消耗が激しいようだったが、笑顔で跳んでいて楽しそうな様子だった。一致団結することができ、クラスの仲が深まる競技となった。



「チーム対抗リレー」では3つの学年がハチマキの色で4グループに分けられた。学校生活では主に部活動などでしか関わることがないため、3学年が一緒に競技に取り組めるとも貴重な機会であった。参加した生徒は「クラスやチームの為に全力で貢献出来るように頑張った」などと話した。初対面でも励ましあったり慰めあったりする姿はとても感動的であった。

(金井 茉優・嶋田 晴佳・重田 陽菜)